

I 北陸地方の概要

1. 地理的優位性

- 日本列島のほぼ中央に位置し、3大都市圏から近く、日本海側の扇の要
- アジア諸国・極東ロシアと日本を結ぶ架け橋として重要な位置
- 道路・港湾・空港・鉄道の交通インフラが発展途上

2. 人口

- 著しい人口減少・高齢化の進行、中山間地や能登半島等における過疎化
- 豊かで住みやすい地域性を象徴する人口日本一の明治中期

3. 産業・観光

- 豊富な水資源などを背景とした企業立地に適した環境
- 古くから地域に根づいた産業を発展させ、国際競争力のあるものづくり産業が集積
- 美しい自然や豊かな歴史・文化を活かした多くの観光資源が存在
- クルーズ船寄港や新幹線開業を背景とした訪日外国人旅行客の増加

4. 自然災害

- 急峻な地形や脆弱な地質、急流な河川、活断層等の地形・地質条件
- 日本有数の降水量や冬期の集中的な大雪による甚大な被害が発生

III 広域的な交通の課題と取組

1. 物流

[取組] 物流機能の向上

- [課題]
- ・日本海側有数の重要な物流拠点として機能
 - ・アジア諸国、極東ロシアと北陸の後背地を相互に結びつける窓口
 - ・太平洋側での大規模災害時のバックアップ

[取組] 安定的な輸送を可能とする道路の確保

- [課題]
- ・北陸の貨物輸送の大半がトラック輸送（道路）に依存
 - ・事前通行規制区間、大雪時の交通障害等の脆弱箇所が多数存在
 - ・通行止めリスクが高い県境部には周辺に迂回路となる道路がない

[取組] 適切な交通負担

- [課題]
- ・生活交通と物流交通の混在
 - ・市街地中心部へのアクセス集中と通過交通の流入

2. 人流

[取組] 国内外の交流人口の創出と活性化

- [課題]
- ・空港・鉄道・高速バス・船舶を中心とした国内外の観光客の増加、地域間の格差・希薄な結びつき

[取組] 生活に必要な交通手段の確保

- [課題]
- ・中山間地や半島における公共交通の不足
 - ・自動車への依存が高く、渋滞が発生

3. ICT等による新たな取り組み

[取組] 物流・人流の効率化に資する新たな交通マネジメントの可能性等

II 目指すべき将来像

<北陸地方の現状を踏まえた目指すべき姿>

わずか百数十年前の明治中期のころ、北前船の発展や江戸時代から続く城下町など、日本一の人口を誇り、日本の中心として栄えた北陸地方も、工業化の進展などとともに太平洋側への人口の移転が進み現在にいたる。日本全体を取り巻く厳しい人口減少社会を克服するため、更なる生産性向上を図り、かつての日本の中心地として栄えたここ北陸を過去よりさらに発展させるため、次の三つの目指すべき「ほくりく」の姿を位置づける。

I. 地理的優位を最大限に活かした活力ある

流通都市「ほくりく」

II. 企業立地に適した土壌とものづくり産業の強みを活かした持続的な

経済発展都市「ほくりく」

III. 豪雪などの厳しい自然を克服・活用して、国内の連携・海外との交流をさらに推し進める

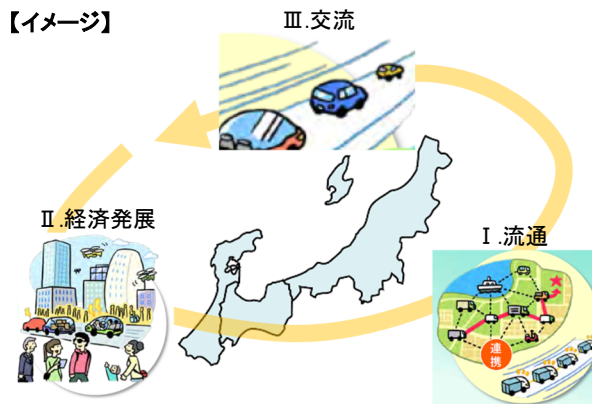
大交流都市「ほくりく」

<将来像>

未来を担う世代のために絶えず国内外と一体に発展し続ける

日本海新時代を牽引するーほくりくー

[イメージ]



- ほ んらいの地域の力を発揮し続け
- く りかえされる災害を克服し
- り んせつする多様な地域と一体となって
- く らしが豊かで絶えず発展する‘北陸’

IV 広域的な道路交通の基本方針

※新潟県・富山県・石川県のビジョンにおける各基本方針により検討を進める

(1) 広域道路ネットワーク

例：都市間及び観光・交流ネットワークの強化 等

(2) 交通・防災拠点

例：都市と郊外との交通ネットワークの充実による地域活性化 等

(3) ICT交通マネジメント

例：ICTやAIをフル活用した交通マネジメントの推進 等

今後検討